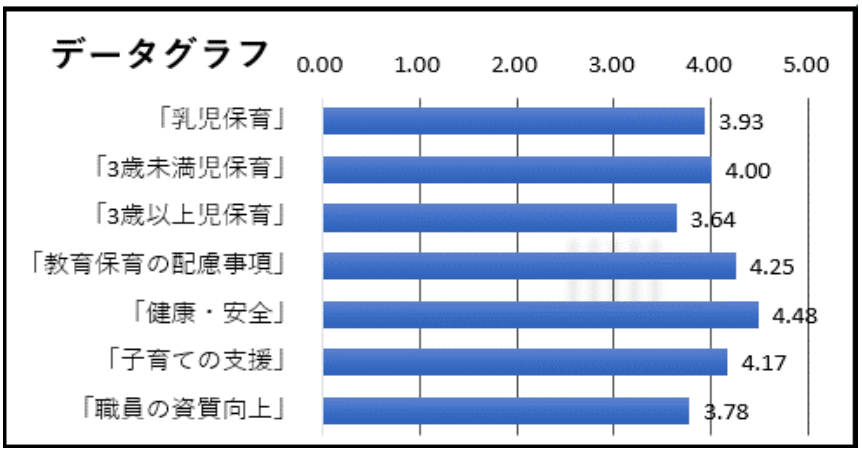
令和４年度幼保連携型認定こども園教育･保育要領に基づく自己評価

作成日　令和５年３月３０日

学校法人真徳寺学園　みつづかこども園

評価方法				
5 あてはまる	4 どちらかといえばあてはまる	3 どちらでもない	2 どちらかといえばあてはまらない	1 あてはまらない

評価	項目数	平均
第２章第２節　乳幼児期の園児の保育	15	3.93
第２章第３節　満１歳以上満３歳未満の園児の保育	32	4
第２章第４節　満３歳以上の園児の教育及び保育	53	3.64
第２章第５節　教育及び保育の実践に関わる配慮事項	16	4.25
第３章　健康及び安全	29	4.48
第４章　子育ての支援	18	4.17
第５章　職員の資質向上	9	3.78
計	172	**3.99**



総合
コロナに翻弄された一年であった。園児の育ちと保護者の就労を守るため、開園し続けることと感染症予防を重視した。感染者を出してはいけないという緊張感のもと、職員自身も感染のリスクを抱えながらこれまで以上に仕事量が増え、体力と気力を消耗した。陽性者が出た場合濃厚接触者に特定される人数を減らすため、他の学年やクラスとの交流をしないようにし、必要最小限の単位で活動せざるを得ず、集団で遊ぶ・運動する・友だちと関わることの制限があった。その中でも、子どもたちが自分のやりたい遊びを選び、遊び込むことができる環境が確保できるように努めたためじっくりと遊び込むことができる子どもが増えた。コロナ禍で園外研修は限られた職員のみの参加であったが、園外研修で得たことは、園内研修で取り上げ、職員全体に周知したり、理解する場も設けた。

準拠資料：全国認定こども園研修研究機構作成「幼保連携型認定こども園教育･保育要領に基づく保育者支援のための自己評価ワークシート(Ver.1.1)」